

## パブリックコメント実施結果

1 実施期間 平成27年1月23日(金)~2月23日(月)

2 意見提出者数 1件(1人)

### 【内訳】

計画(案)に 対する意見	反映した意見	件
	一部反映した意見	件
	反映しなかった意見	件
	既に計画(案)に記述済の意見	1件
計画(案)以外の意見		件

3 公表期間 平成27年3月11日(水)~4月13日(月)

## パブリックコメントで寄せられた意見と市の考え方

案件名	上越市総合公共交通計画(案)	担当課	新幹線・交通政策課
-----	----------------	-----	-----------

1	<p>ご意見の該当箇所:P65 7-1 地域公共交通の再構築及び活性化に向けた基本的な方針</p> <p>P61の表で、目標1の中に「利用需要に見合った運行本数の最適化」という部分があるが、「利用需要」というのを市はどうとらえているのだろうか。</p> <p>単に高齢になって自家用車を運転できなくなったときとか、旅行などで遠くへ出かけるときだけではない。P66の方針1にあるように「すこやかな日常生活を送る上で、必要不可欠な通勤……」とあるが、現役世代である自分にとって、通勤に公共交通が全く役に立っていないのが現状だ。本気で「通勤に対応した公共交通を構築します」といっているのか。</p> <p>私は目の持病もあるし、運転の能力もないと思っているので車は運転しない。私は大学卒業後、自分の希望する職業が新潟県内では「車の免許をもっていること」が条件だったので、それに失望し神奈川県で30年近く働いてきた。</p> <p>しかし、妻の父親の介護の関係もあり、むこうを退職してこちらへ戻ってきたが、来てみると公共交通をめぐる状況は、私がこちらにいたころよりはるかにひどくなっている。本数も少ないし、料金も非常に高額だ。ハローワークの求人票をみても、車の免許をもっていることが条件、場合によっては自分の車を使うことが条件、さらには求人票に書いてないのに面接して車を運転しないことがわかると、それでムリですと言われ、現在の上越市は車に乗れないならここに住むなど言っているに等しい。仮に勤めたい就職先がみつかったら、そこへいくまでに公共交通など使えないのが実態だ。</p> <p>私は、現在ダブルワークをやっているが(それは非正規雇用が不安定という現在の社会状況からして、収入がゼロになるのを防ぐためだ)会社の倒産とか、労働時間を削られたりとかの理由で、職場を変えざるえないことが度々ある。しかし車をもたない身にとっては、それだけで就職先の選択肢は狭められるし、仮にあっても勤務時間が正午からとか、午後3時からとか、さまざまな時間帯からはじまるし、さまざまな時間帯に終わる。</p> <p>こういう社会状況、通勤状況を考えたら、この状況下で「通勤に対応した公共交通を構築する」という以上は、すべての路線で30分に1本ずつ、料金も格安で提供しなければならなくなってくるはずだ。</p> <p>P66で、この下段で言っているように、若年層でも車ばなれが目立つ時代であり、P65でもあるように、今後さらに高齢化が進行するわけだし、高齢になっても仕事をしなければ生計が成り立たない人だっているはずだ。</p> <p>通勤、通学、旅行、買い物だけではない。田舎は都会とちがいで、人間関係が濃密だ。親戚などのさまざまな付き合いに時間も金もさかねばならないことが多い。気軽に区部の親戚へ行くなどということすら出来ない。生活全般で容易に使えるような、公共交通網を本気でつくりようとしているのだろうかと思ってしまう。</p> <p>ただ、そのためには莫大な予算がかかる。だからこの問題は、交通の問題だけをいじっていてもダメで、将来めざすべき都市像が一番大切になってくるのではないかと思う。</p> <p>本計画案では、現状分析をいろいろやっていて、もちろんそれも大切だが、それとともに将来の上越市の福祉、教育、産業のあり方などすべてにわたる、いわゆる「当市の将来都市像」(本計画案でも出てくる語だ)を明確にする必要があるし、その中で予算を削るべきところ、もっと加えなければならないところがはっきりしてくるはずだ。おそらく現在とはちがった都市像になるはずだ。</p> <p>もしかして、私が見ていないのかもしれないので、だとして失礼にあたる部分もあったかもしれないが、車がなくても、車を運転しなくても、安心して生活できる市をめざしてほしいと切に願う。</p> <p>本計画案の中で、北陸新幹線の二次交通などの記述もあるが、そもそも市民が都合よく公共交通を使えないようなところに観光客など来るはずがないと考える。</p>
ご意見	
対応状況	記載済

<p>市の考え方</p>	<p>当市では、これからのまちづくりの目標となる将来都市像に「すこやかなまち～人と地域が輝く上越～」を掲げ、その実現に向け、市民の皆様とともにまちの総合力を高めていく取組を展開していくこととしております。P3に記載のとおり、「上越市第6次総合計画」においては、市民の生活の足として不可欠な公共交通について、一層の利用促進や利便性の確保に向け、沿線地域の行政・市民・地域経済界、交通事業者が一体となって対応していく必要があるとしています。また、「上越市都市計画マスタープラン」では、P4に記載のとおり、「快適で充実した都市(生活)空間を形成し、各拠点が相互に連携した持続可能な都市構造」の実現に向けたまちづくりとして、「拠点とネットワークを強化するまちづくり」を推進することとしています。</p> <p>「総合公共交通計画」はこれらの計画と整合を図りながら作成しており、当市の地域公共交通の将来像に「快適な暮らしを支える持続可能な地域公共交通」を掲げ、P65・66に記載のとおり、「生活交通の維持・確保」と「二次交通の整備」を基本方針として、通勤や通学、買い物、通院など日常生活を支えるとともに、広域的な交流を促進する交通ネットワークの整備に向けた施策を実施することとしております。</p> <p>ご意見をいただきました「利用需要に見合った運行」や「利便性の向上」につきましては、当市でも重要な課題と考えておりますことから、P67～70に記載のとおり、「利便性の維持・向上」や「利用促進」、「生活交通の維持・確保」を目標として設定し、社会情勢の変化や地域の実情にあわせ、効率性が高い地域公共交通への見直しを継続しながら、安全・安心で快適な市民の日常生活を支えるため利便性の高い地域公共交通網の整備に取り組むこととしております。</p> <p>具体的な施策は、P72からの「8-1 生活交通の維持・確保や利便性の向上に向けた施策」で記載したとおりですが、来年度はこれらを実施レベルにまで具体化、スケジュールを定め、実施計画としてまとめることとしております。なお、実施計画の作成にあたっては、沿線の地域の皆さんとの意見交換やニーズなどをお聞きしながら進めていく予定としております。</p> <p>本総合公共交通計画や実施計画に基づき、効率的で利便性の高い「快適な暮らしを支える持続可能な地域公共交通」の実現に向け、取り組んでまいりたいと考えております。</p>
--------------	---